

李海峰先生のご退職にあたって

李海峰先生は、昭和31年6月、中国・河北省承德市のお生まれで、昭和56年7月に中国・对外経済貿易大学（UIBE）対日本経済貿易学部をご卒業なさいました。卒業後はそのまま同大学の助教を務めながら、昭和58年に在中華人民共和国北京・日本学研究中心「大平学校」（文部科学省設立）を修了し、昭和59年8月には中国・对外経済貿易大学（UIBE）対日本経済貿易学部の講師へと昇任なさいます。大きな転機となったのが昭和62年10月の北海道大学への留学でした。そのまま平成4年に北海道大学大学院経済学研究科博士前期課程を修了し、平成4年3月に経営学修士号を取得されています。後期博士課程へと進まれたあと平成10年3月に単位取得退学をなさると、北海道大学の客員研究員として働きながら、平成11年3月に経営学博士号を取得されています。平成11年4月からは札幌学院大学の非常勤講師となり、平成14年4月に山口大学経済学部にて准教授として就任されます。平成18年2月には教授へと昇任し、現在まで山口大学経済学部および東アジア研究科の教育・研究に尽力いただきました。また、それまでの間に、平成21年9月より2年間、Stanford University, Department of Economicsの客員研究員として、平成31年3月より1年間、Stanford University, APARCアジア・太平洋研究センター客員研究員として留学の経験もなさっておられます。

この間、教育・研究および運営に大いにご貢献いただきました。まず、教育面では、学部学生および大学院生のアジア経済・中国経済に関する理解の向上に努めていただき、「中国経済論」、「中国経済史」、「東アジア社会経済論」などの科目をご担当いただき、多くの優れた卒業生および修了生を世に送り出していただきました。また、東アジア研究科では「東アジア消費社会経済分析」等

をご担当いただきながら、多くの学生たちに博士号取得のための指導をいただきました。

学内においては、教務委員会委員長、経済学研究科運営委員長、東研・図書委員会委員長、学生委員会委員、情報環境委員会委員、Webシラバス専門部会委員、大学院東アジア研究科運営委員会委員を歴任され、学部運営のためご尽力いただきました。

さらに、地域貢献として、山口県立南陽工業高校、山口県鴻城高校、山口市野田学園高校、山口中央高校等へ出前講義へ出向き、「中国の経済発展と消費市場の動向」について高校生への経済学の普及と経済学部の広報にご尽力いただきました。また、2003年5月—2004年3月山口県地域振興部国際課による北東アジア地域戦略検討会に参加され、国際交流の推進にご努力いただいています。また国内だけでなく海外大学から度々客員教授招聘され、中国・清華大学では「社会経済の研究に应用する多変量解析の実践」、中国人民大学では「応用統計分析方法」や「中国の経済発展と都市化戦略」などを15回講義なさっておられますし、その他、米国のUniversity of Rhode Islandでは、「持続消費社会の国際比較研究」、Stanford Universityでは「社会学の組織理論研究」の講義もなさっています。学生たちにとって、広く世界を視野に入れた講義は新たな知見を得られる貴重な経験となったことでしょう。

学術研究面では、「経済発展段階における都市住民の生活水準と価値観の変化」(2009)や「中国の大衆消費社会の進展と消費者行動の分析」(2009)が代表的な論文となりますが、欧米諸国や日本の事例に基づき開発された理論や分析方法を応用し、「世界最大の消費市場」となりつつある中国における大衆消費社会の形成・進展と価値変容のメカニズムを解明する李先生の研究は先駆的であり、数多くの研究成果が国内外の学会で報告され、

学術論文や著書として公表されています。直近でも“Household Debt, Leverage Ratio and Consumption: Evidence from China” (2021), “Holding risky financial assets and subjective wellbeing: Empirical evidence from China” (2020) など精力的に共同論文執筆にエネルギーを注ぎ込んでおられます。

中国と日本の経済状況や消費者行動の相違点に着目しながら、両国の架け橋となるべく研究を続けてこられた李先生の姿には我々教職員だけでなく、学生たちも大いなる刺激を受けたのではないのでしょうか。また、米国留学で得られた多くの知見は、学生たちに対してアジアだけに留まらない世界規模の経済・経営の分野に視野を広げる動機づけになったものと感じます。今回、無事に定年を迎えられ、経済学部の一員として李先生をお送りできることに真の感謝と、そして、スタッフ全員の拍手をもって巻頭の辞とさせていただきます。これまで20年間本当にありがとうございました。

令和4年3月31日

山口大学経済学部長 兵 藤 隆